WORLD COFFEE RESEARCH™

2025年 年次報告書

コーヒーの未来を創造する



ワールドコーヒーリサーチ（WCR）は、世界のコーヒー業界と一致団結して、科学的根拠に基づいた農業ソリューションを活用し、将来に向けて持続可能で多様な品質の高いコーヒーを供給するという喫緊の課題に取り組んでます。
私たちのすべての活動は、高品質なコーヒーの供給を向上させると同時に、その生産に携わる家族の生活向上を実現するという使命を前進させるものです。





本レポートは、2025年1月1日から2025年12月31日までの期間における ワールドコーヒーリサーチ(WCR)の活動、主な成果、および実績をまとめたものです。

コーヒーの未来が、今まさに訪れています。

コーヒー業界全体は、コーヒーがもたらす収穫によって成り立っています。コーヒーの木を正しく育てることができれば、その他すべての価値も大きく広がっていきます。

WCRは、30か国にわたる194社の会員企業で構成された非営利の農業研究機関です。会員企業は共同で投資を行い、世界中のコーヒー生産を変革する次世代の気候変動に適応したコーヒー品種の開発を進めています。
私たちは協力しながら、2,000億ドル規模のコーヒー産業にこれまで存在しなかった、将来に向けて気候耐性と高品質を兼ね備えたコーヒー品種を生み出す共有型のグローバル育種システムを構築しています。





より優れたコーヒーの木を育てることで、コーヒーは自らの未来を切り拓いていきます。

安定供給を支えるための科学。

私たちは協力しながら、新たな価値を生み出しています。パートナーとともに、より優れた品種を開発・試験・提供することで、世界中の農家に届け、生産地の多様性を守っています。

- コーヒーに特化した最高水準の育種アプローチ
- 生産の安定化、病気への抵抗性、そして優れたカップ品質を実現するための優れた遺伝資源。

生産国とともに。

通常は輸出市場で競争関係にある11か国が、私たちと肩を並べ、それぞれの国の研究体制に育種試験を組み込んで協力しています。

- 地域の実情に適した、科学的に検証された品種を実現します。
- 品種を農家へ届けるために必要な承認・普及プロセスを円滑に進めます。

需要主導型で、業界によって推進される取り組み。

コーヒー業界は、WCRへの共同投資を通じて、私たちの研究を推進しています。

- 私たちは、会員企業に対して責任を負っています。
- 私たちの育種プログラムは需要主導型であり、農家が育てたいと思い、コーヒー焙煎業者が買いたいと思う品種を提供することを目指しています。

最高経営責任者（CEO）より

世界最高のコーヒーは、まだ存在していません。その時は、もうすぐ訪れます。

私たちの会員企業とパートナーが、それを実現しています。
そして、これから先の未来をともに形づくっていきます。

会員企業は、WCRを設立することで、前例のない取り組みを実現しました。それは、2,000億ドルを超えるコーヒー産業を支える遺伝的基盤を構築する、世界規模の協働組織です。
遺伝資源はコーヒーの未来の土台であり、このシステムから生み出される次世代の気候変動に適応し、高品質を備えた品種は、コーヒー農業の可能性をさらに広げていきます。
WCRの協働型・ネットワーク型の取り組みは、他に類を見ません。
これまで直接協力することの少なかった各国政府が、それぞれの独自の遺伝資源や科学的知見を、一つの共有基盤に提供しました。
また、市場では競争関係にある企業同士も連携し、コーヒーの品種改良には10～15年単位の時間が必要であることを理解した上で、長期的な資金を投じてこの取り組みを推進しています。
この革新的な「協調 × 競争」モデルによって、私たちの優良な遺伝資源は現在、4つの大陸の研究圃場で活用されています。

今後数年間で、WCRはこれらの新品種を農家の畑へ大規模に普及・展開するために必要な仕組みを探求していきます。
私たちはこれからも革新を続けます。世界規模の遺伝資源パイプラインを築き上げた協働の精神を活かし、農家へのラストワンマイル配送を実現し、研究を永続的に支えられるモデルの構築に取り組んでいます。
私たちは、何が可能かを追求しながら、会員企業やパートナーとのさらなる協力を楽しみにしています。
より優れた品種が、まもなく登場します。
その時に向けて、私たちは準備を整えています。



—Dr.Vern Long,
最高経営責任者（CEO）
WORLD COFFEE RESEARCH



品種改良

WCRの品種改良プログラムでは、世界トップレベルの科学者たちが、データを中心とした最新の手法とグローバルな協力体制の力を活用し、品種改良にかかる期間を短縮しながら、新品種の木を農家へ届ける取り組みを進めています。



INNOVEA GLOBAL BREEDING NETWORK EXPANDS

INNOVEAは、史上最も野心的かつ世界規模で連携されたコーヒー育種プログラムであり、協力国を結集してコーヒー育種を変革し、これまでにないスピードで優れた遺伝系統種を生み出しています。

2025年には、このネットワークは カネフォラ種（ロブスタ）の品種改良にも拡大され、新たにベトナムとガーナが参加国として加わりました。

- ネットワークに参加する11のパートナー国のうち、現在はベトナム、ガーナ、インドネシア、ルワンダ、ウガンダ、インドの6か国が、INNOVEAのロブスタ品種改良プログラムに参加しています。これらの国々は、世界のロブスタ生産量の64%を占めています。
- このロブスタ育種プログラムでは、多様で新しい遺伝資源が大規模に導入されています。フランスの研究機関 CIRAD から提供されたコレクションを含む、さまざまな C. canephora の遺伝グループを組み合わせることで、ロブスタ品種改良のための最初の母集団が作られました。
  これらの木の増殖は2025年に開始され、2027年以降には、各ロブスタパートナー国へWCRから1,000の異なる新規系統が提供される予定です。これにより、生産性が高く、気候変動に適応し、高品質な選択肢を見極めることが可能になります。
- アラビカコーヒーの遺伝資源の未来は、現在7か国の土壌で育まれています。2025年には、INNOVEAアラビカ試験圃場が、コスタリカ、エルサルバドル、ケニア、メキシコ、ペルー、ルワンダ、ウガンダに設置されました。

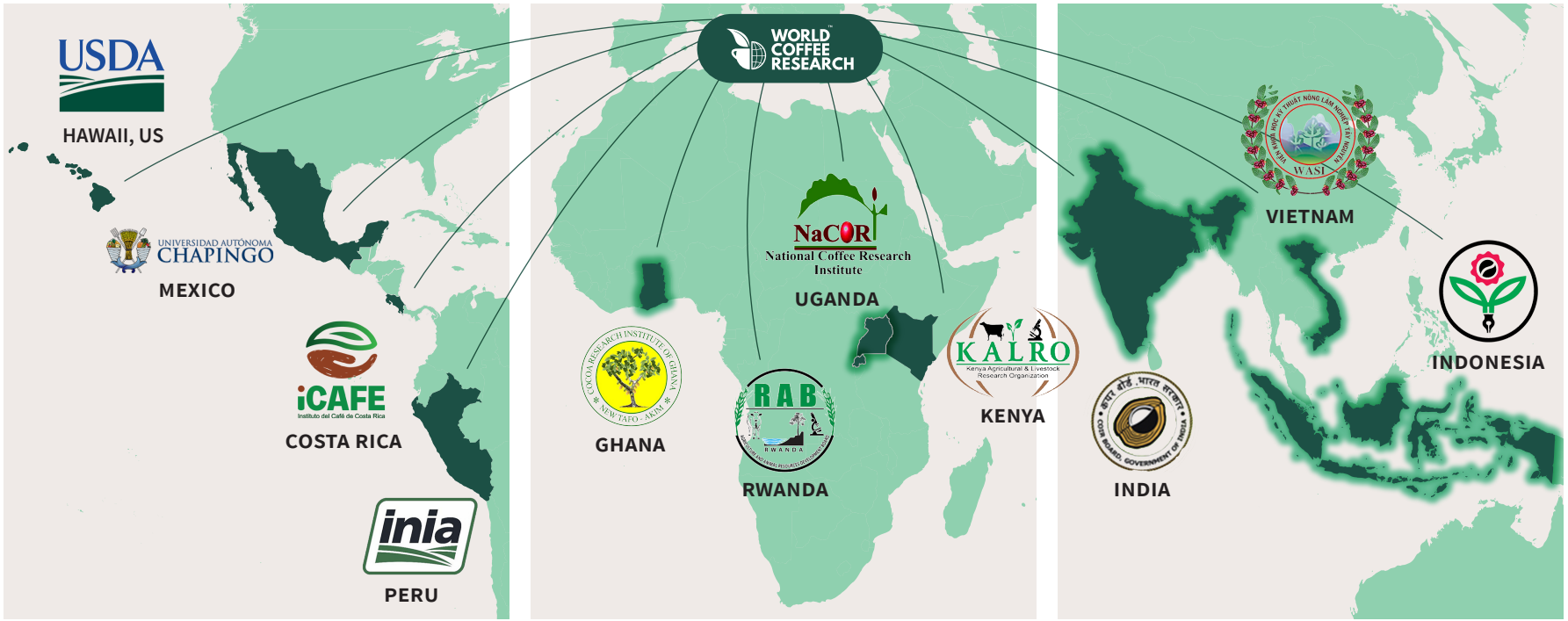


11か国がINNOVEA ネットワークを構成しています。

参加国は、世界のコーヒー供給量の40%を生産しています。

INNOVEAは現在、ロブスタの品種改良も含む取り組みへと拡大しています。

ロブスタの品種改良取り組み地域



コーヒー業界で最も強力なネットワーク。

専門家レビュー：
WCRの育種アプローチは「革新的」な前進。

2025年初頭、WCRの取締役会は、プログラムの技術面および運営面の品質を確保することを目的として、世界的な育種専門家によるレビュー委員会を設置し、WCRの品種改良プログラムを評価しました。その委員会は、WCRのプログラムがコーヒー育種における新たな基準を打ち立てていることを明確に示しました。

“これらのWCRの新たな育種イニシアチブは、世界で最も重要な2つのコーヒー種の品種改良において、非常に大きく革新的な変化をもたらしています。業界からの支援を活用しながら、最新の植物育種手法を導入し、バリューチェーン全体の関係者を結集させています。”

“WCRは、コーヒーの品種改良をデータ主導かつ需要主導型の時代へと進化させ、収量・病気への抵抗性・品質特性における遺伝的改良効果を最大化しています。”

外部レビュー委員会メンバー：
Dr. Paola Barba（サンワールド）
Dr. Mark Dieters（クイーンズランド大学）
Dr. Leena Tripathi（国際熱帯農業研究所〈IITA〉）

TIME誌「Best Inventions of 2025（2025年の最も優れた発明）」

私たちの「INNOVEA グローバル・コーヒー品種改良ネットワーク」は、コーヒーの未来を再構築する役割が評価され、「TIME Best Invention of 2025」（2025年の最も優れた発明）に選ばれました。



品種改良をより速く、より優れたものにし、コストを抑えるためのツール。

新品種をより迅速に届けるため、品種改良におけるボトルネックの解消に取り組んでいます。

WCRは、新しい品種をより早く届けるために、世界中の主要研究機関と連携しています。2025年には、高性能な育種プログラムの精度・スピード・費用対効果を高めるツールを開発するため、数多くの協力プロジェクトの第一歩を開始しました。これらの革新は、従来30年かかっていた育種期間を、わずか8年まで短縮することを目指して設計されています。

- 私たちは、世界有数のコーヒー研究機関であるコロンビアの Cenicafé および、プエルトリコにあるアメリカ農務省熱帯農業研究ステーション（USDA TARS）と連携を開始しました。
  この協力では、データを統合し、世界で最も経済的被害の大きいコーヒー病害であるコーヒーさび病（Coffee Leaf Rust, CLR）に対して、低コストで利用可能な遺伝マーカーの開発を進めています。
- 今後の展開として、2026年には新たな資金とパートナーシップのもと、この取り組みをさらに拡大します。対象は、コーヒーベリーディジーズ（CBD）、コーヒー果実腐敗病（CFR）、コーヒーベリーボーラー（CBB）といった主要な病害に加え、コーヒー品質を評価するためのツール開発にも広がります。



これらのツールは、品種改良者が初期段階で高性能かつ病気への抵抗性のある候補個体を迅速に選抜できるようにするものであり、長年にわたる高コストな圃場試験の必要性を大幅に削減します。
遺伝マーカーは2025～2028年にかけて開発・検証され、その後は学術論文として公開される予定です。これにより、世界中の育種プログラムの近代化を支援し、科学に基づく共有型イノベーションを通じて、グローバルなコーヒー供給の強化につなげていきます。



実証試験

WCR とそのパートナーは、世界各地で多数の試験圃場（トライアルサイト）を運営し、既存および新しいコーヒー品種の評価を行っています。
これらの試験サイトは、品種の性能がさまざまな環境でどのように変化するかを理解するために役立つとともに、育種アプローチを改善・洗練するための重要な検証の場となっています。

国際多地域実証試験（IMLVT）

世界最大規模のコーヒー品種試験の成果を収穫する。
IMLVT（国際多地域実証試験）は、協働がいかに大きな成果を生むかを示しています。このプロジェクトが2015年に開始された当初は、構想と種子の小分けパッケージにすぎませんでしたが、11のコーヒー研究機関が協力し、31の高性能アラビカ品種を世界各地で試験することで合意しました。それから10年後、私たちはこの試験がもたらした豊かな成果を目の当たりにしています。これは、変化する世界の需要に対応するために農業研究がどのように進化すべきかを示すモデルとなっています。

国際多地域実証試験（IMLVT）とその影響について詳しく学ぶ

IMLVTが最初の10年間で私たちに与えた5つの成果

2050年問題の定義

2015年、WCRと CIAT（熱帯農業国際センター；コロンビア）は、気候リスクをマッピングし、世界規模の試験ネットワークのサイト選定を導く研究を行いました。このネットワークは、18か国が管理する29の研究区画で構成されています。この研究では、2050年までに現在のアラビカ栽培地域の最大50%が栽培に適さなくなる可能性があることが示されました。詳細はこちら：bit.ly/agro-zones（参考リンク）

世界的に見て最も有望な選択肢

IMLVT試験では、さび病に対する高い抵抗性と安定した収量を持つ高性能品種や、特定の環境に適した高い潜在能力を持つ品種が特定されてきました。これらの結果は、参加国における新しい品種導入の指針となっています。

コーヒーをより良くするための遺伝情報の活用。

IMLVTは、コーヒー品種の性能評価を行う世界最大規模の連携型実証試験ネットワークです。この取り組みは、科学的基盤、国際的なパートナーシップ、そして分析手法を提供し、その後のINNOVEA育種ネットワークの設計を形づくる重要な役割を果たしました。

国境を越えた共同研究

このネットワークは、12か国以上の研究者を結集し、協働による科学的進展を生み出しています。例えば2025年の研究では、コーヒーさび病（Coffee Leaf Rust）への抵抗性は遺伝要因と環境要因の両方に左右されることが示されました。これにより、より強靭な品種の開発が加速しています。詳細はこちら //bit.ly/coffee-rust-study（参考リンク）

今後もさらに続きます。

2026年、World Coffee Researchは「CafeClima」を立ち上げました。
これは無料のオンラインプラットフォームで、気候モデルとIMLVT（国際多地域実証試験）の品種性能データを統合しています。これにより、農家や資金提供者がデータに基づいて植え替え（リプランティング）の意思決定を行い、更新の際のリスクを低減できるよう支援します。

F1ハイブリッド試験

中南米で、商業化前試験が現実のものとなっています。

WCRは、ペルー、グアテマラ、コスタリカにおいてF1ハイブリッド4種の候補を導入しました。また、10の試験サイトにおいて、1万本のF1ハイブリッド苗木が、会員主導の試験を通じて農家の圃場に直接植えられています。これらの試験は、民間セクターとの連携を小規模に検証するものであり、将来的に大規模な品種展開を行う際のアプローチを決定するための重要な知見を提供します。





種子システム

種子システムと苗木生産(ナーサリー)は、2,000億ドル規模のコーヒー産業において不可欠なインフラであり、新しい遺伝資源を農家の圃場へ届ける役割を担っています。WCRは10年にわたり、コーヒーの種子システムを強化するためのツールやパートナーシップの構築に投資してきました。これにより、今後10年間に訪れる革新の波を受け入れる準備を整え、農家と業界の双方にとって価値の高い品種を届けられる体制を目指しています。

ペルー、グアテマラ、ホンジュラス、ウガンダにおける種子システムの強化。

2025年、World Coffee Researchは重点生産国における取り組みを前進させ、新たな種子供給源の確立、既存供給源の強化、苗木生産者(ナーサリー)の研修、そして流通システムの検証を行いました。これにより、農家へ気候変動への適応性があり高品質で健全なアラビカ種およびロブスタ種の品種を届ける体制の構築を進めています。



ペルー

ペルーでは、World Coffee Researchが新たに10区画のアラビカ種の種子圃場を設置しました。これらはアマゾナス、カハマルカ、サン・マルティンの各地域にまたがり、8つの協同組合によって運営されています。

- 品種:Parainema、IPR107は、World Coffee ResearchのIMLVT試験を通じて、ペルーにおいて高収量かつさび病耐性が高い品種として特定されました。
- 生産ポテンシャル:2028年までに合計15の新しい種子ロットが設置され、年間最大600万粒の種子を生産する見込みです。これは、毎年最大1,500ヘクタールを高品質なコーヒーの木で更新できる規模に相当します。
- 資金提供:Keurig Dr Pepper、JDE Peet's、Marks & Spencer

ウガンダ

ウガンダでは、西部および中部地域において、病気への抵抗性を持つロブスタ種のための11のマザーツリー圃場を新設または拡張しました。この取り組みは、ウガンダの国立コーヒー研究機関であるNaCORIと連携して実施されています。

- 品種：コーヒー萎凋病（Coffee Wilt Disease, CWD）に抵抗性を持つロブスタ系統（KRライン）
- 生産ポテンシャル：2028年までに40以上の新しいマザーツリー圃場が設置され、年間最大56万本の高品質な苗木を生産する見込みです。これにより、約500ヘクタールのコーヒー園を更新できる規模となります。
- 研修：民間企業および政府から20名の現地技術者が、ロブスタ種の挿し木および接ぎ木による繁殖技術について研修を受けました。
- 資金提供：UNIDO、JDE Peet's、Lavazza Foundation、The J.M. Smucker Co.

グアテマラおよびホンジュラス

私たちは、評価、研修、種子ロットの設置を通じて種子システムの能力を強化し、高品質な苗木へのアクセスを拡大しました。

- 生産ポテンシャル：2026年には新たに12の種子ロットが設置されます（グアテマラに2カ所、ホンジュラスに10カ所）。これにより年間最大540万粒の種子を生産でき、2029年以降は毎年約1,200ヘクタールを更新できる規模になります。
- 研修：60名の種子供給者が、健全で遺伝的に純粋な苗木を生産するための研修を受けました。また、25名の種子ロット運営者が、Coffee Quality Instituteと連携し、高品質な種子処理技術に関する研修を受けました。
- 資金提供：JDE Peet's、Kansas State University、およびアメリカ合衆国国務省（U.S. Department of State）







グローバル・リーダーシップ

コーヒーの研究開発（R&D）投資を促進するための国際的な支援要請活動

2025年、私たちの支援要請活動は、急激に変化した資金調達環境に直面しました。公共部門による農業R&D（研究開発）への投資は急速に縮小しました。これを受けて私たちは、重要な資源を緊急に守るとともに、「農業科学は供給の安定と農家の生活を支える不可欠なものだ」という業界全体のメッセージを一体となって強化しました。



2025年の成果

科学研究資金の確保（保護）

WCRでは、米国の会員企業による連携したアドボカシー活動（支援要請活動）を通じて、2026会計年度において国際農業研究開発向けの1億7500万ドルの「確定予算（ハード・イヤーマーク）」の確保に貢献しました。

この中には、予算の一部をコーヒー研究に充てることを義務づける法的要件も含まれています。これらの資金は、気候変動と生産性という業界が直面する最も重要な課題に対し、将来の公的投資を導く役割を果たします。

ウガンダの成長を支える強化。

私たちは、ウガンダのコーヒーの未来に投資するためのグローバルな連合を動員しました。UNIDO、JDE Peet's、Lavazza Foundation、およびThe J.M. Smucker Co.は、種子システムとサプライチェーンの強靭性を強化するために85万ユーロの拠出を約束しました。このプロジェクトでは、ウガンダの2030年生産目標達成に向けて高収量品種を生産するマザーツリー圃場の整備をはじめ、さまざまな活動が実施されます。

グアテマラにおける「より良い苗木、より良い輸出」。

WCRは、Coffee Quality InstituteおよびKansas State Universityと連携し、アメリカ合衆国国務省（U.S. Department of State）の支援のもと、種子生産者の育成を進めています。これにより、高品質な苗木の供給量を増やすことを目指しています。



資源と知識の共有

2025年、WCRの知識コンテンツ(コーヒー品種カタログ、テイスティング用センサリー・レキシコン、ナーサリー向けマニュアルなど)は、**195か国**で合計**239,722回**閲覧されました。







WCRの無料リソースをダウンロードしてください
worldcoffeeresearch.org/resources



2025年の財務

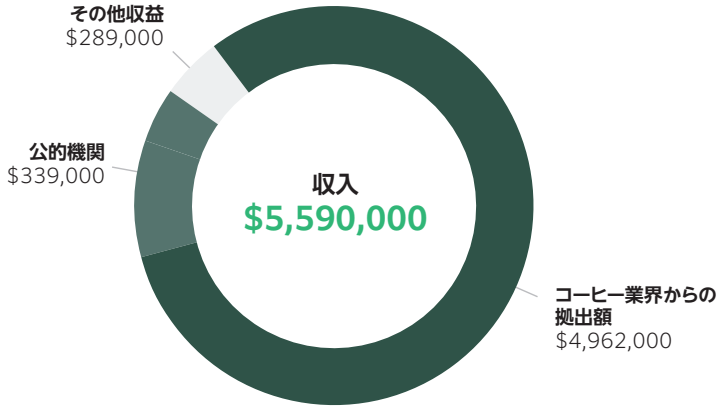
2025年、World Coffee Researchは、194社の会員企業がコーヒーの現在および将来世代に向けた持続可能な未来の確保に強くコミットしていることを改めて確認しました。さらに、2025年には新たに59社の企業および個人が資金提供に加わりました。

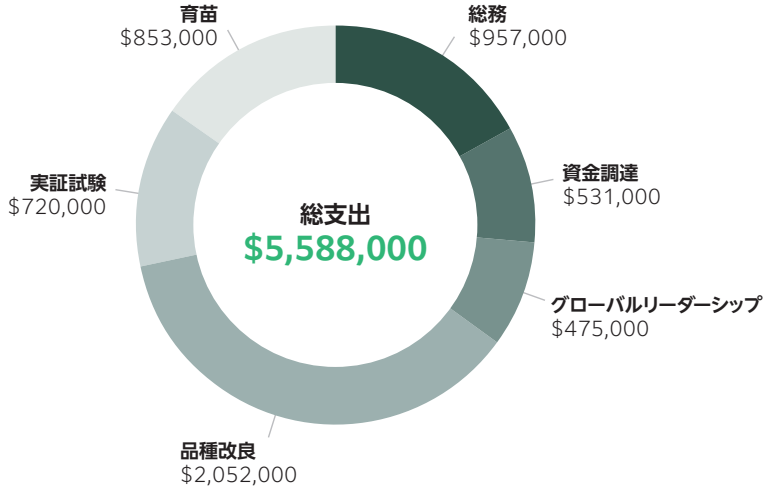
2025年にコーヒー業界から得られた拠出金は、496万2,000米ドルでした。

掲載している数値は監査前のものです。複数年にわたる拠出約束額については、当年度分の金額のみを表示しています。

2025年末時点の財務状況（Year-End Financial Position）

現金/投資	$4,849,000
未収拠出金	$4,593,000
その他の資産	$568,000
負債	$158,000
純資産	$9,852,000
総財務状況	**$9,852,000**





2025年度の会員と支援者

大小の企業からなるWCRの会員企業が、コーヒー研究という共通の世界的課題に共同で取り組むために出資しています。会員企業の参加は、活気に満ちた持続可能なコーヒー産業の重要な礎となっています。

2025年、30か国から194社の企業がWCRに加入しました。

会員区分

- Coffee Tree
- Seedling
- Sprout
- Seed

Coffee Tree

THE J.M. SMUCKER Co + Folgers

LAVAZZA GROUP + LAVAZZA FOUNDATION

NDCP + DUNKIN'

JDE Peet's + L'OR ESPRESSO + KEY COFFEE

TAYLORS OF HARROGATE + Tchibo

Keurig DrPepper + Tim Hortons

Seedling

- アレグロ·コーヒー·カンパニー
- アービッド·ノルクイスト HAB
- ブルーボトルコーヒー
- カラベラ·コーヒー
- コーヒーサークル
- コーフェイン·コンパニー
- コミュニティ·コーヒー·カンパニー
- カウンターカルチャーコーヒー
- ダッチ·ブロス·コーヒー
- フィンレイズ
- インテリジェンシア·コーヒー
- リンカーン·アンド·ヨーク有限会社
- マークス·アンド·スペンサー
- ノイマン·グルッペ USA 株式会社（事業部門：アトラス·コーヒー·インポーターズ、インターアメリカン·コーヒー、ロートフォス）
- フィルズ·コーヒー
- スカフィナ SA（事業部門：サステナブル·ハーベスト、スカフィナ NV、スカフィナ NA）
- サクデン·コーヒー
- ユニオン·ハンドロースステッド·コーヒー



Sprout

- アリー・コーヒー
- オールライティ・コーヒー
- エリア51 アルチザン・コーヒー・ロースターズ
- アサヒ・クオリティーアンドイノベーションズ株式会社
- アトキンソンズ・コーヒー・ロースターズ
- アビエイター・コーヒー合同会社
- ベッカライ・ハップ
- ベルレーン・コーヒー
- ベター・コーヒー
- ブラックオーク・コーヒー・ロースターズ
- ブロッサム・コーヒー・ロースターズ
- ボダム
- 株式会社ボンタイン珈琲本社
- ブームタウン・コーヒー
- ブナ
- カフコム
- カフェ・インポーツ
- カレンダー・コーヒー
- キャンバー・コーヒー
- キャンベル&サイム・コーヒー・ロースターズ
- キャラバン・コーヒー
- セレモニー・コーヒー・ロースターズ
- コーヒー・ブロス
- コーヒー・リブレ
- コーヒー・ネクサス有限会社
- コーヒー・ユニファイド
- コーヒーバー
- コヴォヤ有限会社
- クラフトハウス・コーヒー
- クランクハウス・コーヒー有限会社
- クーバ・バイオテック
- クンパ
- クプリマ
- カーブ・コーヒー・ロースターズ
- ダークウッズ・コーヒー有限会社
- ディア・グリーン・コーヒー・ロースターズ
- デムス株式会社
- メキシカン・デカフェナイザーズ株式会社
- ドリフトアウェイ・コーヒー
- DRウェイクフィールド
- ダンキン・インターナショナル／インスパイア・ブランズ
- ECRE（旧：コレクティブ・ロースティング・ソリューションズ）
- エクエーター・コーヒーズ
- ファディー・篠栗ロースタリー株式会社
- フィックス・コーヒー
- フローレス・アイランド・コーヒー
- フォーキャスト・コーヒー・カンパニー
- フグレン・コーヒー・ロースターズ・オスロ
- フルクラム・コーヒー
- ホルモジ・コーヒー
- ハックルベリー・ロースターズ
- I&Mスミス
- アイドル・ハンズ・ロースティング
- インバイブ・コーヒー・ロースターズ
- インターコンチネンタル・コーヒー・トレーディング
- アーヴィング・ファーム・ニューヨーク
- イザキ・コーヒー株式会社
- ジャバ・シティ
- カルディコーヒーファームオンラインストア
- ケラチャンドラ・コーヒー
- ケルチャンシェ・トレーディングPLC
- キム・ハウス・ロースター
- クラッチ・コーヒー
- クア・コーヒー
- クラス株式会社
- リミニ・コーヒー
- リスト+バイスラー有限会社
- リサ・エスプレッソ
- リトル・ウェーブズ・コーヒー・ロースターズ
- マッドキャップ・コーヒー・カンパニー
- マーケット・レーン・コーヒー
- 丸紅食料
- マシュー・アルジー
- メルボルン・コーヒー・マーチャンツ
- メトリック・コーヒー
- ムーン・ロースト
- モプラコ・トレーディングPLC
- ミスター・エスプレッソ
- ムルナウァー・カフェロースト ライ
- ナイロン・コーヒー
- オム・バイ・スペースバー・コーヒー
- ワン・ヴィレッジ・コーヒー
- オリジン・コーヒー・ロースターズ
- アウトイン
- オゾ・コーヒー・ロースターズ
- パッセンジャー・コーヒー・アンド・ティー
- フィリピン・コーヒー・アンド・バリスタ・インスティチュート株式会社
- ポリプランツ
- レイブ・コーヒー
- ロー・ビーン株式会社
- レッド・バンク・コーヒー・ロースターズ
- リミニ・コーヒー
- リントンズ
- リバー・コーヒー・ロースターズ
- ロースト・ハウス・コーヒー
- ランブル・コーヒー・ロースターズ
- 石光商事株式会社
- 猿田彦珈琲株式会社
- 住商フーズ株式会社
- SCSグローバル・サービス
- ソルベルグ&ハンセン AS
- スティッチ・コーヒー
- ストーンXスペシャルティ・コーヒー
- スプレモ・コーヒー
- スイート・マリアズ・コーヒー株式会社
- スイスウォーター・デカフェ・コーヒー・カンパニー
- タフ・コーヒー
- タタ・コーヒー株式会社
- テメキュラ・コーヒー・ロースターズ
- テンプル・コーヒー・ロースターズ
- ザ・コーヒー・ビーン・アンド・ティー・リーフ
- 株式会社トーアコーヒー
- トニーズ・コーヒー
- トラボッカ
- ヴィデス58コーヒーズ
- ワンダーステート・コーヒー



Seed

- アーティザン・ジャバ・ティー
- バークレー・ビーン
- ベナヒー・コーヒー
- ブラック・キャット・カフェ・カンパニー
- ブリュー・アンド・クリック
- ブリュー・ザ・ブレンド
- ブリューテイ・コーヒー
- ブッダ・ジャバ社
- ブラ・コーヒー
- カフェ・ムンディ
- カフェシ
- セレブリュー
- シュエット・トレファクトゥール・ラボラトワール
- クンブレ・コーヒー
- フォート・フィンドレー・コーヒー&ドーナツ・ショップ
- フリーフォーム・コーヒー・ロースターズ
- フライデー・コーヒー・ロースターズ
- グリーン・コーヒー・コレクティブ
- ハーバー・コーヒー
- ハードハット・コーヒー
- ヘシアン・コーヒー
- ハウンド・ハウス・コーヒー
- アイアン・ブリュー・コーヒー
- アイアン・ソルジャーズ・コーヒー・カンパニー
- レオパード・コーヒーズ
- マディング・クラウド・コーヒー
- マストドン・コーヒー
- マッドビーン・コーヒー・カンパニー
- ネセシタス・カフェ
- ネメシス・コーヒー・ロースティング社
- ニンカムスープ社
- オーバービュー・コーヒー・ジャパン
- ピークスキル・コーヒー
- プエモン
- レスキュー・パップ・コーヒー
- ロースト ウルフ
- ラウンドテーブル・コーヒー・ワークス
- サマドゥール・コーヒー
- サトル・コーヒー
- シシュ・ロースターズ
- シップセーション・コーヒー
- スキッパーズ・レメディ
- サクセス・ジュース
- TBDコーヒー
- ザ・メンタル・バー・コーヒー・カンパニー
- ジ・オールド・キャプテン
- ザ・ポーフェクト・ブリュー
- トビアス・コーヒー
- ワンダー・ウェーブス・コーヒー
- ラングラー・コーヒー・カンパニー

2025年には、59の企業および個人が追加の資金支援を提供した。

- セブンス・アベニュー・ロースタリー
- バリー・ハウス・コーヒー・カンパニー
- ビーンストック・コーヒー・ロースターズ
- ブラック・キャット
- ブルーメ・コーヒー・トレーダーズ
- ボルト・コーヒー・カンパニー
- ボックスカー・コーヒー・ロースターズ
- ブリューポイント・コーヒー
- カフェ・デ・レチェ
- カミノ・レアル・コーヒー・ロースターズ
- コーヒー・ファクトリー
- コールドブロー・コーヒー・カンパニー
- カラー・コーヒー・ロースティング
- コヴォヤ・スペシャルティ・コーヒー
- クロップ・トゥ・カップ・コーヒー
- ダンシング・ゴーツ・コーヒー
- デロンギ
- ディスパッチ・コーヒー
- ダン・ブラザーズ・コーヒー
- ファーストハンド・コーヒー
- フォーティテュード
- フル・シティ・ルースター
- ギャング・オブ・フォー・コーヒー
- グリーンウェイ・コーヒー・カンパニー
- ハート・アンド・グラフト・コーヒー
- ホフマン・インダストリーズ
- ホーシャム・コーヒー・ロースター
- ユンカーズ・カフェ・レステライ
- カルディーズ・コーヒー
- ラ・コロンブ・コーヒー・ロースターズ
- ラ・ミニータ・コーヒー
- ランドマーク・スペシャルティ・コーヒー
- ライトハウス・コーヒー・ロースターズ
- モナステリー・コーヒー
- ムーンゴート・コーヒー・ロースターズ
- ノース・フォーク・コーヒー・ロースターズ
- オラム・インターナショナル
- オリシポ・コーヒー・ロースターズ
- パラボラ・ブランズ
- プリマベーラ・グリーン・コーヒー
- プロメテウス・コーヒー・ロースターズ
- リポーゾ・コーヒー・ロースターズ
- リバー・シティ・コーヒー
- ローズ・アンド・クランツ・ロースティング
- ローズ・パーク・ロースターズ
- ロイヤル・カップ・コーヒー
- スモール・プレーンズ・コーヒー
- スパイハウス・コーヒー・ロースティング
- スクエア・マイル・コーヒー・ロースターズ
- スクエア・ワン・コーヒー・ロースターズ
- セント・ポール・ロースタリー
- ストラクチャー・コーヒー・ロースターズ
- ザ・コーヒー・ソース
- ザ・ロースタリー
- トゥルー・ストーン・コーヒー・ロースターズ
- ヴォルカフェ・スイス
- ヴォルカフェ UK&アイルランド
- ウォーカー・コーヒー・トレーディング
- ウェスト・コーク・コーヒー・ロースタリー

2025年チェックオフ プログラム参加者

マッチング拠出／協賛サプライヤー

- アトラス·コーヒー·インポーターズ
- カフェ·インポーツ
- カラベラ·コーヒー USA
- カラベラ·リミテッド
- コーヒー·ユニファイド
- コヴォヤ
- コヴォヤ·スペシャルティ·コーヒー
- クロップ·トゥ·カップ·コーヒー
- クプリマ
- デスカフェイナドーレス·メヒカノス
- DRウェイクフィールド
- インターアメリカン·コーヒー
- インターコンチネンタル·コーヒー·トレーディング
- ラ·ミニータ·コーヒー
- リスト+バイスラー有限会社
- メルボルン·コーヒー·マーチャンツ
- オラム·インターナショナル
- プリマベーラ·グリーン·コーヒー
- スカフィナ UK
- スカフィナ·スペシャルティ NA
- サステナブル·ハーベスト
- スイスウォーター·デカフェ·コーヒー·カンパニー
- ザ·コーヒー·ソース
- トラボッカ
- ヴォルカフェ·スイス
- ヴォルカフェ UK&アイルランド
- ウォーカー·コーヒー·トレーディング



非マッチングサプライヤー

- アグロインドゥストリアス・ウニダス・デ・メヒコ（AMSA）
- アトランティック・スペシャルティ・コーヒー
- バーボン・スペシャルティ・コーヒー
- ケープホーン・コーヒー・カンパニー
- カーギル・インターナショナル
- コーヒー・リソーシズ
- クープファム
- イースト・アフリカ・コーヒー
- ECOMアグロインダストリアル ― カワコム
- エクセルコ・トレーディング
- エクスポカセル
- ファルコン・コーヒーズ
- グリーンコフ
- インターアメリカン UK
- ラ・バスティーヤ・コーヒー・エステーツ
- オリジン・コーヒー・ラボ
- パラゴン・コーヒー・トレーディング・カンパニー
- ラカフェ
- RGCコーヒー
- ロイヤル・コーヒー
- ザ・コーヒー・ソース・ヨーロッパ
- ヴォルカフェ・スペシャルティ・コーヒー・コーポレーション

参加ロースター／小売業者

- セブンス・アベニュー・ロースタリー
- アレグロ・コーヒー・カンパニー
- ベッケライ・ハップ
- バリー・ハウス・コーヒー・カンパニー
- ビーンストック・コーヒー・ロースターズ
- ブラック・オーク・コーヒー・ロースターズ
- ブルーメ・コーヒー・トレーダーズ
- ボルト・コーヒー・カンパニー
- ボックスカー・コーヒー・ロースターズ
- ブリューポイント・コーヒー
- カレンダー・コーヒー
- コールドブロー・コーヒー・カンパニー
- カラー・コーヒー・ロースティング
- カーブ・コーヒー・ロースターズ
- ダンシング・ゴーツ・コーヒー
- ダーク・ウッズ・コーヒー
- ディア・グリーン・コーヒー・ロースターズ
- ドリフトアウェイ・コーヒー
- ダン・ブラザーズ・コーヒー
- ECRE（旧：コレクティブ・ロースティング・ソリューションズ）
- エクエーター・コーヒーズ
- フォーティテュード
- フル・シティ・ルースター
- グリーンウェイ・コーヒー・カンパニー
- ハート・アンド・グラフト・コーヒー
- ホーシャム・コーヒー・ロースター
- ハックルベリー・ロースターズ
- インテリジェンシア・コーヒー
- アーヴィング・ファーム・ニューヨーク
- ジャバ・シティ
- カルディーズ・コーヒー
- ラ・コロンブ・コーヒー・ロースターズ
- ランドマーク・スペシャルティ・コーヒー
- リミニ・コーヒー
- マーケット・レーン・コーヒー
- モナステリー・コーヒー
- ムーンゴート・コーヒー・ロースターズ
- ミスター・エスプレッソ
- ナショナルDCP／ダンキンUSA
- ノース・フォーク・コーヒー・ロースターズ
- オリシポ・コーヒー・ロースターズ
- オリジン・コーヒー・ロースターズ
- フィルズ・コーヒー
- レイブ・コーヒー
- レッド・バンク・コーヒー・ロースターズ
- リミニ・コーヒー
- リントンズ
- リバー・シティ・コーヒー
- ロースト・ハウス・コーヒー
- ローズ・アンド・クランツ・ロースティング
- ローズ・パーク・ロースターズ
- ラウンドテーブル・コーヒー・ワークス
- スパイハウス・コーヒー・ロースティング
- スクエア・ワン・コーヒー・ロースターズ
- ストラクチャー・コーヒー・ロースターズ
- テイラーズ・オブ・ハロゲート
- テメキュラ・コーヒー・ロースターズ
- テンプル・コーヒー・ロースターズ
- ザ・ロースタリー
- トゥルー・ストーン・コーヒー・ロースターズ
- ウェスト・コーク・コーヒー・ロースタリー



取締役会

当社の取締役は、世界中のコーヒー企業を代表する最も重要なリーダーや有識者で構成されています。彼らは舞台裏で尽力し、組織を戦略的に導いています。



James T. McLaughlin, Jr.
ジェームズ・T・マクラフリン・ジュニア
Intelligentsia Coffee
（インテリジェンシア・コーヒー）
会　長



Pablo von Waldenfels
パブロ・フォン・ヴァルデンフェルス
Tchibo
（チボー）
副会長



Giacomo Celi
ジャコモ・チェリ
Sucafina SA
（スカフィナ）
事務局長／書記



Shawn Hamilton
ショーン・ハミルトン
Klatch Coffee
（クラッチ・コーヒー）
会　計



Roberto Alonso Vega Alfaro
ロベルト・アロンソ・ベガ・アルファロ
Starbucks
（スターバックス）



Hope Bagozzi
ホープ・バゴッツィ
Tim Hortons
（ティムホートンズ）



Katie Carguilo
ケイティ・カーギロ
Counter Culture Coffee
（カウンター・カルチャー・コーヒー）



Mario Cerutti
マリオ・チェルッティ
Lavazza Group
（ラバッツァ・グループ）



Keith Flury
キース・フルーリー
Sucden
（スックデン）



Nadia Hoarau-Mwaura
ナディア・ホアロウ=ムワウラ
JDE Peet's
（JDEピーツ）



Mark Howell
マーク・ハウエル
Community Coffee Company
（コミュニティ・コーヒー・カンパニー）



Harrison Leger
ハリソン・レジャー
National DCP
（ナショナルDCP）



Monique Oxender
モニーク・オクセンダー
Keurig Dr Pepper
（キューリグ・ドクターペッパー）



Victoria Salin
ビクトリア・サリン
Texas A&M University
（テキサスA&M大学／TAMU）



Yutaka Shibata
柴田　裕
KEY Coffee
（キーコーヒー）



Jim Trout
ジム・トラウト
The J.M. Smucker Co.
（J.M.スマッカー）



Keith Writer
キース・ライター
Taylors of Harrogate
（テイラーズ・オブ・ハロゲート）

その他の理事会委員：

Kelly Amoroso（ケリー・アモローソ）Allegro Coffee（アレグロ・コーヒー）、**Eve Bartnik**（イヴ・バートニック）Swiss Water Decaffeinated Coffee Inc.（スイスウォーター・デカフェ・コーヒー）、**Philippe Casas**（フィリップ・カサス）JDE Peet's（JDEピーツ）、**Massimiliano Fabian**（マッシミリアーノ・ファビアン）Demus SpA（デムス）、**Dr. Ingo Lantz**（インゴ・ランツ博士）Tchibo（チボー）、**Cammie McLeod**（キャミー・マクラウド）Intelligentsia Coffee（インテリジェンシア・コーヒー）、**Ellen Nielsen**（エレン・ニールセン）PROBAT（プロバット）、**Leon Sanchez**（レオン・サンチェス）Sucafina SA（スカフィナ）、**Matt Saurage**（マット・ソーリッジ）Community Coffee Company（コミュニティ・コーヒー・カンパニー）、**Fionula Scanlan**（フィオヌラ・スキャンラン）Taylors of Harrogate（テイラーズ・オブ・ハロゲート）、**Bianca Serito**（ビアンカ・セリート）Lavazza SpA（ラバッツァ）、**Jim Smith**（ジム・スミス）Royal Cup Coffee（ロイヤル・カップ・コーヒー）、**Andi Trindle Mersh**（アンディ・トリンドル・マーシュ）Philz Coffee（フィルズ・コーヒー）、**Joe Vaughan**（ジョー・ヴォーン）The J.M. Smucker Co.（J.M.スマッカー）

チーム

私たちのチームは、高品質なコーヒーの供給を増やし、生産者の生活向上を図るため、品種改良システムの近代化という意欲的な計画を着実に推進しています。

リーダーシップ



Dr. Jennifer Vern Long
ジェニファー ヴァーン ロング博士
CEO（最高経営責任者）

Dr. Tania Humphrey
タニア・ハンフリー博士
Research and Development Director（研究開発ディレクター）

Dr. Kraig Kraft
クレイグ・クラフト博士
Global Partnerships Director
（グローバル・パートナーシップ・ディレクター）

Liam Cummins
リアム・カミンズ
Finance Director（財務ディレクター）

Siaska Vieira de Castro
シアスカ・ヴィエイラ・デ・カストロ
People & Administration Director（人事・総務ディレクター）

Alexa Heinicke
アレクサ・ハイニッケ
Director, Industry Membership & Development
（業界会員・事業開発ディレクター）

チームメンバー

Josué Arévalo Alvarenga
ホスエ・アレバロ・アルバレンガ
Research Technician（研究技術員）

Dr. Veronica Belchior
ベロニカ・ベルキオール博士
Research Scientist – Coffee Quality
（研究員 — コーヒー品質）

Dr. Jorge Berny Mier y Teran
ホルヘ・ベルニー・ミエール・イ・テラン博士
Research Scientist – Plant Breeding and Genomics
（研究員 — 植物育種・ゲノミクス）

Dr. Santos Barrera Lemus
サントス・バレラ・レムス博士
Senior Research Scientist – Plant Breeding & Genomics
（主任研究員 — 植物育種・ゲノミクス）

Elly Castro
エリー・カストロ
Senior Research Technician
（主任研究技術員）

Kristin Franklin
クリスティン・フランクリン
Contracts & Grants Manager
（契約・助成金マネージャー）

José María Gómez Vargas
ホセ・マリア・ゴメス・バルガス
Senior Manager, Administration
（管理部シニアマネージャー）

Koleen Hall
コリーン・ホール
Business Manager USA
（米国ビジネスマネージャー）

Jarrod Harris
ジャロッド・ハリス
Finance & Post-Award Manager
（財務・助成後管理マネージャー）

Joshua Harris
ジョシュア・ハリス
Accounting Manager（経理マネージャー）

Maeve Holler
メイヴ・ホラー
Industry Communications Manager
（業界広報マネージャー）

Dr. Robert Kawuki
ロバート・カウキ博士
Research Scientist – Plant Breeding and Genomics
（研究員 — 植物育種・ゲノミクス）

Jean Baptiste Kayigamba
ジャン・バティスト・カイガンバ
Research Technician（研究技術員）

Catherine Mumba Maina
キャサリン・ムンバ・マイナ
Global Project Manager
（グローバル・プロジェクト・マネージャー）

Jimmy More
ジミー・モレ
Project Manager Peru
（ペルー担当プロジェクトマネージャー）

Simon Martin Mvuyekure
サイモン・マーティン・ムブイェクレ
WCR Breeding Liaison
（WCR育種リエゾン）

Maureen Namugalu
モーリーン・ナムガル
Project Manager Uganda
（ウガンダ担当プロジェクトマネージャー）

Hanna Neuschwander
ハンナ・ノイシュワンダー
Senior Advisor Communications
（広報シニアアドバイザー）

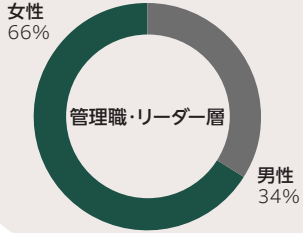
Maud Nicolas
モード・ニコラ
Executive Administration and Membership Manager
（役員管理・会員マネージャー）

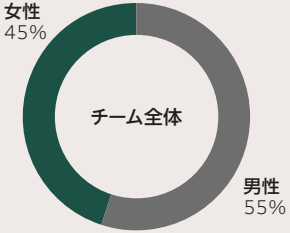
Nuzul Qudri
ヌズル・クドリ
Project Manager Indonesia
（インドネシア担当プロジェクトマネージャー）

Emilia Umaña
エミリア・ウマーニャ
Senior Manager, Nursery Program
（苗木プログラム・シニアマネージャー）

Jesslin Zeledón
ジェスリン・セレドン
Project Manager Central America
（中米担当プロジェクトマネージャー）

WCRチームメンバー（2025年12月31日時点）：







16か国在住の会員

2025年、WCRはエルサルバドルの研究農場に、小規模バッチ生産処理設備を新設した。本施設は、当団体の育種プログラム向けに特別設計されたものである。

10年にわたる研究成果を優良なコーヒー樹として現場に届けるためには、まずミクロレベルでの管理を極める必要があります。この施設により、特殊な発酵容器、果肉除去技術、管理された乾燥環境を活用しながら、数千本に及ぶ個体樹のサンプルを高い精度と細心の注意をもって生産処理することが可能になります。また、本施設は有望品種候補の選定能力を強化するとともに、パートナーと共有可能な加工プロトコル構築の基盤にもなります。



